

NKオンリーワン通信

VOL.13

発行：新潟北高等学校

22112213

今日はオンリーワンスクール
推進事業としては初の上級学校

訪問！本校でもキャリアアップセミナーとして上級学校の
教職員を招いたり、インターンシップ事業の中で外部に出かける
ことはあっても本校生は内弁慶の感もあり、そうした意味におい
ても自分のフィールド内に止まらず、枠外に出ることの大切さも理解してもらいたいとの
思いから今回は新潟中央短期大学のご好意により、実現することとなった。

今回の新潟中央短期大学へは、2年生11名と1年生9名の計20名で訪問した。事前
指導で話をしていたせいか、集合時間をしっかり守った生徒の行動には感心した。（「そ
こが一番肝心なんだよ。」と心の中でつぶやく。）この時だけの一過性に終わることなく、
本校生ひとりひとりに、そしてあらゆる場面にも通用する倫理であることを認識してほし
い。偉そうなことを言ってる自分への自戒も込めて(>_<)

新潟中央短期大学訪問の章～H22.11.18

バスで一行が到着。校舎の中に入る際にある生徒が一言。「土足でいいの？へへ～、い
ったい誰が掃除するの？」本校生にとっては最初から大きな驚きであったようだ。それに
加え、廊下ですれ違ふ短大生のすべてが我々教職員のみならず、生徒一人一人にもあいさつを
している姿が目強く焼き付けられた。こうした姿勢で学生時代を送ったら素晴らしいものとな
ったのに、今となっては(*_*)（私の場合は大学時代体育会だったので違った意味での
あいさつはしっかりしていたが……(T_T)）

さて、3階の講義室に案内され本日の1番目のプログラムで
ある「幼児教育科の特色」につ
いて説明をしていただいた。そ
の際、先生は例を出され、こ
うした場合にあなたはどんな言葉
をかけるか？と皆に問いかけた。

「様々なことにはレベル差も温
度差もある。まずこのことをし
っかり認識すべきで、保育は考
えてもらいながら遊びを通して
伝える場である。」とも。我々高
校教育のレベルだとそんなこと
にはお構いなし？で（そうでな



い人も中にはいると思うが) 画一的に均一化を図ろうとしていることに気づかされた。目から鱗が落ちた瞬間だった。また、今後の幼児教育に係る制度改正なども情報提供がなされ、生徒にとっては貴重な時間だったようだ。

休憩を挟んで施設見学と授業見学を本校卒業生で新潟中央短期大学2年鈴木さんと1年の柄沢さんの案内でさせていただいた。特に幼児教材実習室での工夫された教材には目を見張るものがあった。ハプニング??はリズム室を見学した際、その場で踊っていた学生と少しながらも声をかけあえたことであった。



その後講義室に戻って本校卒業生との対話の時間。最初はぎこちなかった卒業生2人も「さすが短大生!!」と思わせる受け答え。高校時代とは違い、成長の跡がうかがえた。



本校生徒・教員からの質問は、

- ①「この学校に来てよかったことは？」(2年生女子)
- ②「短大生活で大変なことは？」(2年生女子)
- ③「高校時代の勉強で役に立っているものは？」etc

これに対し、

- A1「皆が同じ夢を持っている。
だから協力し合え、仲がいい」
A2「就職活動、本学の特徴で

あるミュージカル、実習かな。でも、やっぱり子どもはカワイイ(*^_^*)」

A3「現代文。けっこう数学も役に立つかも……!」などなど。もう少し生徒からの質問ができればよかったなあと思っていたら、1年生の女子が休憩時間の間中質問攻め。「ほお～たいしたもんだ。」こうした姿勢をどういう場面でも発揮できるよう我々も生徒を指導していかなければならないと再認識させられた。

私をもっとも印象に残ったのは、卒業生2人とも「**将来、保育・幼児教育の仕事に就きたいという"夢"を忘れていない**」ということ。確かに現実の世界は厳しいものがあるが、この姿勢は常に持ち続けてほしいと思っている。卒業生から私自身もそのことの大切さを教えてもらった気がする。

最後のプログラムは、永井先生による「保育内容総論」の模擬授業。どんな授業が展開されるか興味津々(^_-)はじめは体を動かし、「んっ、これって??手遊び??」



その後、「子どものいざこざ」についてご講義いただいた。子どものいざこざ(ケンカ)は「自己主張と自己主張のぶつかり合い」であり、「自己主張」すなわち、「自分を出す」。この姿勢はとっても大切なことであると。しかし、保育現場ではこうした現実の中で瞬時に判断が求められ、その中ではっきり自分の考えが言えるようになることが大切と教えていただいた。これは、保育・幼児教育の現場のみならず、激動の現代を生き抜く上でとても大切なことであると認識させられた。さらには、こうした場合、「**思いを読み取り、認め、その思いを大切に**する」姿勢が必要であることを学ばせてもらった。実は、高校現場においても同じことが言えるんだよね、きっと(∩_∩)

先生は「ふうせんねこ」の絵本を最後にみんなに読んでくださった。

さて、当日講義を受けた本校生はこの意味をどのように受け取ったことだろうか？私は先生の抑揚のある読み方の中にその時の「思い」を読み取ってほしいとのメッセージが込められていたように思う。なぜなら、



それが幼児教育を行う上での第一歩だと考えるから。

今日はタイトな日程であったがとても考えさせられる短大訪問であった。たぶん、いやきつと参加した本校生にとっても貴重な時間であったと思う。最後

に、本校生を快く受け入れてくださった新潟中央短期大学の寺川学長様はじめ、中心となって企画運営くださった斎藤准教授様、教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

この広報は、新潟北高等学校ホームページ

http://www.niigataki-h.nein.ed.jp/gakkou/top_gakkou.htmlにも掲載しています。